

# ARCH

SAISEIKAI NIIGATA KENOH KIKAN HOSPITAL

10

2025.04





診療看護師  
高野 浩司

母性看護専門看護師  
吉森 容子

皮膚・排泄ケア認定看護師  
三須 恵美子

救急看護認定看護師  
小島 圭太

# PROFESSIONAL NURSE

— 対談 —

## 看護のプロフェッショナル

「県央地域の患者は県央地域で診る」を使命とする済生会新潟県央基幹病院には、看護のプロフェッショナルである診療・専門・認定看護師が計17名在籍しています。今回は、日々の診療を支え、県央地域を日本の地域医療のモデルにすべく邁進されている、診療・専門・認定看護師を代表する4名の方々にお話を伺いました。

診療・専門・認定看護師、  
それぞれの役割や仕事について教えてください。

【三須】認定看護師は特定の分野における熟練した看護技術と知識を活かし、質の高い看護を提供するというのが役割で、他にも医療従事者に対する相談、指導なども行います。もともと私は外科病棟にいたのですが、人工肛門による皮膚トラブルや排泄の不便さを抱える患者さんの姿を見て、人工肛門の装具を適切に選択できれば患者さんにも不安なく生活できるのではないかと思います。皮膚排泄ケア認定看護師になりました。仕事のやりがいは、自分の知識や判断で患者さんに的確な装具を提供し、それによって日常生活が問題なく送れるようになってくれることです。

【小島】私は救急看護が専門ですが、普段は一看護師として働き、救急医療が必要な場面では救急外来や一般外来が活動の場となります。救急看護を選んだのは、子どもの頃に救急隊員がカッコよく見えたり、ドラマの影響で救急は花形だなどという思いがあったのと、看護師として一番最初に患者さんに接するのは救急の場面が多いので、専門性が特化している分野ではないかと思ったのがきっかけです。救急の領域から患者さんが何に困っているのか根本的な部分に目を向け、寄り添うことができるのが認定看護師としてのやりがいでもあります。

【高野】私を含め2名の診療看護師が在籍しているのは、新潟県では当院のみです。仕事の内容としては診療科に所属し、看護のマインドを持ちながら医療にも関ります。私は外科に所属していますが、例えば医師の不在時に迅速な対応が必要な患者さんを診て検査の指示を出したり、状態が悪い場合は医師に連絡するなど、医師や看護師との繋ぎ役のような役割もします。私が目指すのは、患者・看護師・医師が「三方よし」となるように診療看護師が間を取り持ち、医療と看護が両立する形になることです。また、診療看護師は医師の指示があれば一定の医療行為ができるので、やりがいはありますが、看護だけでなく医療の知識も深めていかなければいけないという大変さもあります。

【吉森】専門看護師には、実践・調整・教育・研究・倫理・コンサルテーションという6つの役割があり、これらを駆使しながら現場で活動しています。母性看護専門看護師は、思春期から出産、更年期、老年期と女性の生涯にわたる健康をサポートするのが仕事。助産師だった頃の経験から、女性が健康で自分らしく生きていく支援が必要だと思うのが母性看護専門看護師を目指した理由です。患者さんの専門的な相談に継続的に対応できるところや、多職種と協働したり地域と連携するなど、チームとして関わることにもやりがいを感じています。

診療・専門・認定看護師17名が在籍する済生会新潟県央基幹病院。今後、どのような病院にしていきたいですか。

【小島】当院は「県央地域の患者は県央で診る」を掲げ、周りの支援病院を牽引しながら地域全体を一つの病院として動かし、その医療モデルを全国に発信していくことがミッションです。それを実現するために、私たち診療・専門・認定看護師が一つになって高度な医療や卓越した看護を提供していく。そして医師と看護師、家族を繋いでいく役割を担っていかないとけません。多岐にわたる分野を専門とする17名がいるので、私たちが県央地域から発信できる存在になっていくことが、ミッションではないかと思っています。

【三須】今は在宅で生活する高齢者の患者さんが増えています。今後は認定看護師など専門的知識を持つ看護師が地域に出て、訪問看護師と協働できるようになれば良いと個人的には思っています。寝たがりの患者さんは褥瘡で困っていることもあるので、認定看護師が訪問して適切なケアができれば自宅で見ようと思うご家族も増えるのではないのでしょうか。

【吉森】診療・専門・認定看護師がこれだけいるのですから、看護について一緒に考えたり知識を深めながら、みんなが困ったときに相談できる風土や仕組みを作っていければと思います。また、専門看護師の役割の一つである倫理という視点で、患者さんにとって何をすれば一番いいのかということも一緒に考えながら、看護をしていきたいです。そして女性の生涯を通じた健康支援を目指し、この県央地域に住む女性が相談できる窓口を作っていきたいと思っています。

【高野】今は病院の中の地固めが大切な時期だと思います。みんなのバックグラウンドやスキルもさまざまなので、院内で何か困ったときに知識のアクセスが素早くできるようなシステム作りが必要です。看護師だけでなくコメディカルの人たちも一緒に高め合っていくことができれば病院全体の質が上がり、他の病院との連携も力強くなっていくと思います。また、ここで働く人たちが充実している病院にしていきたいですね。そのためにも私たち診療・専門・認定看護師が活躍し、その背中を見て「こうなりたい」と思ってくれる人が増えるような風土づくりをしていきたいです。

## 診療・専門・認定看護師紹介

済生会新潟県央基幹病院には現在、計17名の診療・専門・認定看護師が在籍しています。  
今回はそれぞれの役割を簡単にご紹介します。



がん化学療法看護  
認定看護師

本田 真由子さん

抗がん剤治療を受ける方が安心して少しでも楽に治療できるよう、医師・薬剤師・看護師が協力して副作用の予防や早めの対応、点滴管理を行っています。外来では副作用や心のつらさに寄り添い、治療とお仕事の両立もサポートします。



救急看護認定看護師

小島 圭太さん 阿部 洋一さん 八島 公男さん

急変や救急医療の現場で専門的な知識と技術を発揮し、患者の命を守る役割を担う看護師です。救急患者には時間が限られているため、職員一人ひとりの力が重要です。院内では急変予測や迅速な対応の指導にも力を入れています。



診療看護師

高野 浩司さん 富田 敦子さん

診療看護師は医師や他の専門職と連携し、症状管理を効果的・効率的に行い、患者の生活の質の向上を目指しています。医師の指示のもと、入院から退院まで幅広い業務に従事し、患者の状態やニーズに応じた医療を提供します。

母性看護専門看護師

吉森 容子さん

妊娠・産後から思春期、更年期、老年期まで女性の生涯にわたる健康支援を行い、多職種と連携して質の高い看護ケアを提供します。地域連携の窓口となり、チーム医療を支える役割を担っています。

手術看護認定看護師

安達 真弓さん

手術が決まってから社会復帰まで、患者さんご家族が安心できるようサポートしています。また、職員の知識や技術が向上できるよう、学習の企画や相談を行なっています。

糖尿病看護認定看護師

本宮 みどりさん

糖尿病の方が合併症を防止しながら、自分らしく生活できるようお手伝いしています。血糖管理や足のケア、ライフステージに合ったセルフケアのサポートを行っています。

慢性心不全看護  
認定看護師

坂井 和泉さん

現在心不全の患者さんは増えており、心不全パンデミックと言われてます。症状の悪化を防ぎ、自分らしい生活を送るためには自己管理が大切です。患者様の症状が安定し、希望する生活が送れるようお手伝いさせていただきます。



皮膚・排泄ケア  
認定看護師  
(特定看護師)

三須 恵美子さん

創傷やストーマ、失禁の問題に対して、専門的な知識を活かしてサポートしています。褥瘡の管理やストーマ外来も行い、地域の医療チームと連携して患者さんを支援しています。創傷管理や栄養・水分管理の研修を終え、特定行為も行っていきます。

感染管理認定看護師

関 千代さん 小柳 浩子さん 朝妻 聡美さん

感染対策を推進するために、感染管理室が主体となって組織横断的に活動しています。職員への教育や感染症への対応、院内ラウンドを行っています。また、他の病院や地域と協力して感染対策を推進しています。

透析看護認定看護師

谷 明子さん

腎臓の機能が低下すると回復が難しく、食事やお薬での管理が重要となります。生活に合った自己管理方法を一緒に考え、腎移植や透析などの治療方法を選ぶお手伝いをします。透析中は、安全で快適に治療が受けられるようサポートしています。

緩和ケア認定看護師

加藤 紗愛さん

緩和ケアはがんだけでなく、どんな病気にも対応しています。体のつらさや心の不安に寄り添い、医師や看護師、薬剤師、栄養士、リハビリの専門家たちがチームを組んで、患者さんご家族がその人らしい生活を送れるようお手伝いします。

### 診療・専門・認定看護師会

当院では、診療・専門・認定看護師の活用向上を目指し、市民や患者さん、ご家族、地域の医療関係者に向けて相談や講習会を実施しています。医療への理解を深め、地域全体の医療の質向上に貢献するとともに、院内でも医療スタッフの知識・技術向上に取り組み、より良い看護の提供を目指しています。

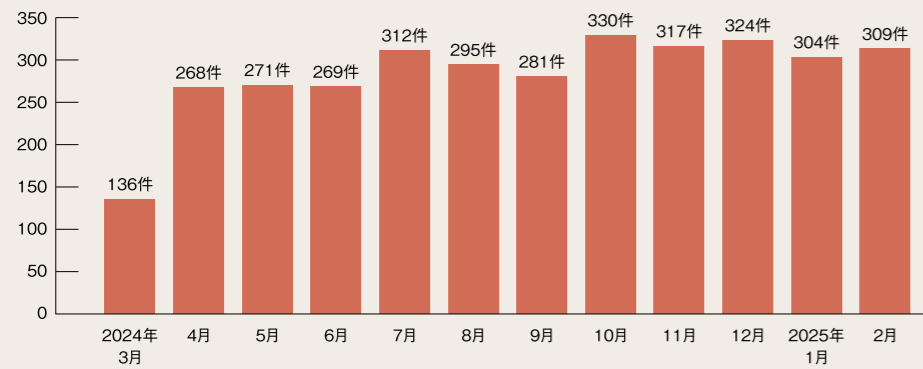


呼吸器疾患看護  
認定看護師  
(特定看護師)

佐々木 綾さん

慢性呼吸器疾患の患者さんは、息苦しさを抱えながら生活しています。時には在宅酸素や人工呼吸器が必要になり、ライフスタイルの大きな変化が伴います。多職種の医療スタッフが支援し、安心して自分らしい生活をサポートしています。

■ 月別手術件数(手術室内で行った手術の件数)

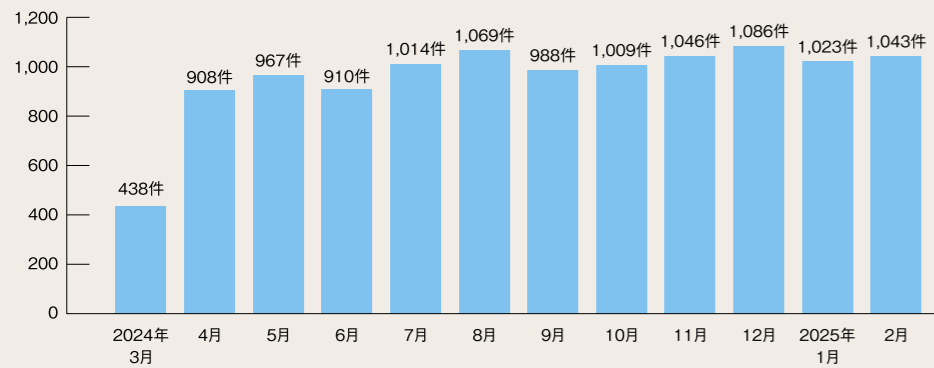


手術件数(累計)

**3,416件**

(2024年3月~2025年2月実績)

■ 月別入院患者受入件数

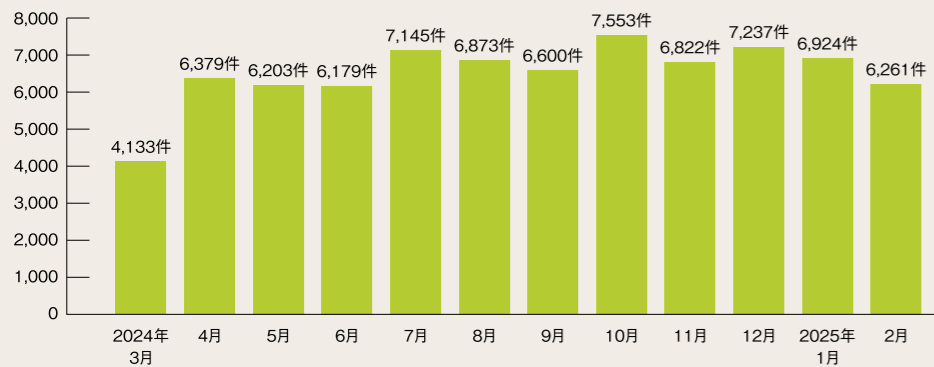


入院患者受入件数(累計)

**11,501件**

(2024年3月~2025年2月実績)

■ 月別外来患者受入件数



外来患者受入件数(累計)

**78,309件**

(2024年3月~2025年2月実績)

〈 開院以来の診療実績について 〉

2024年3月1日に開院し診療を開始、4月1日に産科婦人科、小児科、精神科(外来のみ)、7月1日には形成外科の診療を開始しました。多くの患者さんが来院され、外来診療あるいは入院治療を受けておられます。専門医療についてはできる限りの対応をしておりますが、**外来診療は原則予約制**になっておりますので、かかりつけ医からご紹介をいただき、当院に予約をしていただいた上で、受診をお願いいたします。なお一部、対応できない診療領域もございます。

**入院患者さんの半数は75歳以上の方**で、自宅への転院が難しい場合などでは近隣の病院に転院をしていただき、リハビリテーションや在宅への準備をしていただいております。

手術は外科、乳腺外科、整形外科、外傷再建外科、脳神経外科、産科・婦人科、形成外科、歯科、内科、眼科にておこなっております。

済生会新潟県央基幹病院開院後1年間の実績

**県央基幹病院救急搬送  
受入台数**

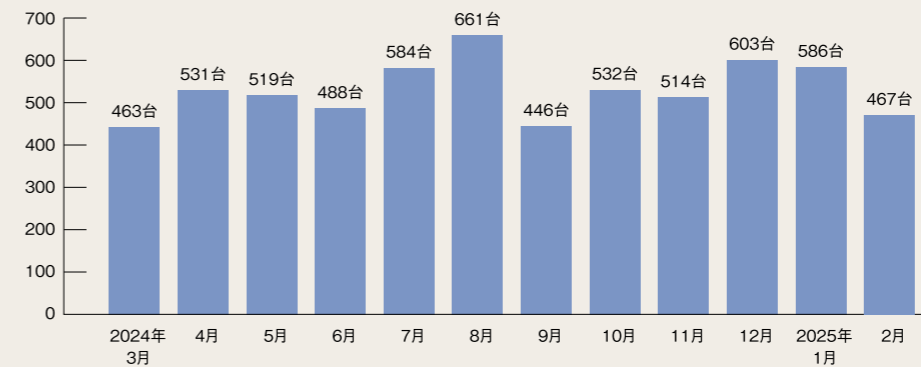
実績

**6,394台**

(2024年3月~2025年2月)



■ 月別救急搬送受入件数



救急搬送受入台数(累計)

**6,394台**

(2024年3月~2025年2月実績)

〈 救急対応実績について 〉

県央地域では救急医療が逼迫しており、救急車搬送の20%以上が新潟市・長岡市へと搬送されておりました。当院開院後、県央応急診療所および地域内の各病院と共に県央地域全体で受け入れることにより、県央地域から隣接の新潟市、長岡市への**(圏域外)救急搬送率**は2023年に比して2024年には**6.3%減少**しました。

当院に救急車で搬送されてくる患者さんは当初見込み以上に多く、**月に500台以上**(これは年間6,500台以上に相当)です。ウォークイン(自家用車等)来院の患者さんを含めた来院救急患者数は、2024年3月から2025年2月までの**1年間で8,966人**です。

重症の患者さんへの対応を迅速に行う態勢に努めております。医療資源も有限ですので、地域の方々には救急車の適正利用と、日ごろからかかりつけ医での定期診察をお願いいたします。

登録医のご紹介



いわさき  
岩崎内科医院(燕市)

〈院長〉岩崎 友洋 様



「気軽に受診・相談できる」一院を目指しております。どんなに名医でも患者様からの訴えがなければ診断することはできません。すべては患者様の訴えからスタートするという考えのもと、話しやすい雰囲気づくりを心がけて参ります。

県中央基幹病院様にはお世話になってばかりです。具合が悪い方の診察をお願いすると、いつも迅速に対応していただき、心から感謝しております。今後とも、県中央基幹病院様を中心とした県中央地域医療を担う医療体制の一員として貢献して参ります。

● 地域にとってどんなクリニックを目指していますか？

医療機関を受診される方は、多かれ少なかれ不安を抱えていると思います。不安が強い患者様に話や聞くと、健診・検診を受けていないことがあります。それらを定期的に受け、ある程度自分の体の状態を把握されている方のほうが心に余裕を持てるのかもしれない。健診・検診の目的は病気の早期発見・早期治療ですが、受けることにより精神的な安心にも繋がりますので、健診・検診を受けることをお勧めします。

また、自宅での血圧測定も重要です。高血圧は万病のもとと言われ、放置しておくとう動脈硬化が進行してしまい、心筋梗塞や脳梗塞などのリスクが高くなってしまいます。高血圧で症状がでるのリスクが少ないため、日々の自宅での測定がとても大切です。

● 日々の生活の中で、気を付けた方がよい症状はありますか？

医療機関を受診される方は、多かれ少なかれ不安を抱えていると思います。不安が強い患者様に話や聞くと、健診・検診を受けていないことがあります。それらを定期的に受け、ある程度自分の体の状態を把握されている方のほうが心に余裕を持てるのかもしれない。健診・検診の目的は病気の早期発見・早期治療ですが、受けることにより精神的な安心にも繋がりますので、健診・検診を受けることをお勧めします。

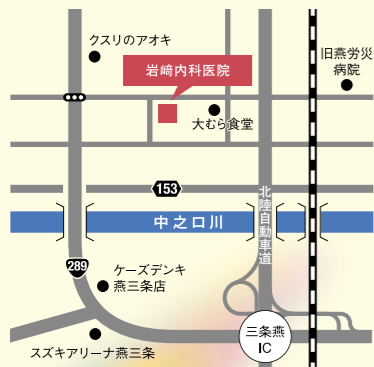
また、自宅での血圧測定も重要です。高血圧は万病のもとと言われ、放置しておくとう動脈硬化が進行してしまい、心筋梗塞や脳梗塞などのリスクが高くなってしまいます。高血圧で症状がでるのリスクが少ないため、日々の自宅での測定がとても大切です。

● 日々の診療で心がけていること、大切にしていることはありますか？

まずは「謙虚」に「丁寧」に対応することを心掛けています。患者様の訴えを丁寧に聴くことが正しい診断・対応につながると思います。患者様が発言しやすい診察を目指しております。また、先が見えないと患者様は不安になってしまうため、診察時点での私の考えや今後の見通しを伝えるようにもしております。

● まず、御クリニックについて教えてください。

当院は2002年に先代である岩崎洋一が開院し、2020年に私が継承いたしました。私の専門分野は消化器内科です。消化器内視鏡専門医の資格を有しており、胃カメラでは経鼻内視鏡を使用し、大腸カメラでは水浸法を用いるなど、苦痛の少ない検査を目指しております。総合内科専門医として幅広い分野において初期対応ができることも当院の特徴の一つです。



岩崎内科医院【内科、消化器内科】

〒959-1241 新潟県燕市小高828  
診療時間 / 午前9:00~12:30 午後15:00~18:00  
TEL / 0256-61-3666  
アクセス / 中華そば「大むら食堂」様の隣  
休診日 / 木曜・土曜の午後・日曜・祝日  
HP / <https://www.iwasakinaika2002.com/>

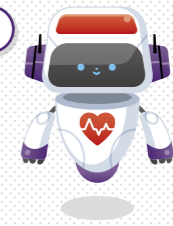


診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:30	●	●	●	△	●	●	△
午後 15:00~18:00	●	●	●	△	●	△	△

ケンオー  
KEN-O くん

院内ウォーキング  
〈HOSPITAL WALKING〉

ボクが紹介するよ

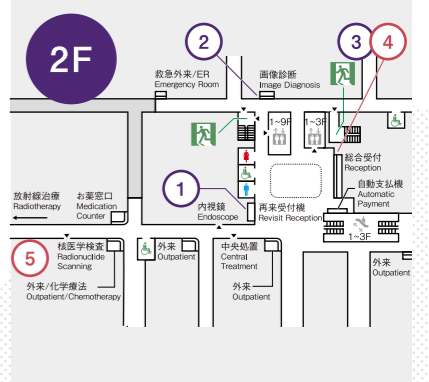
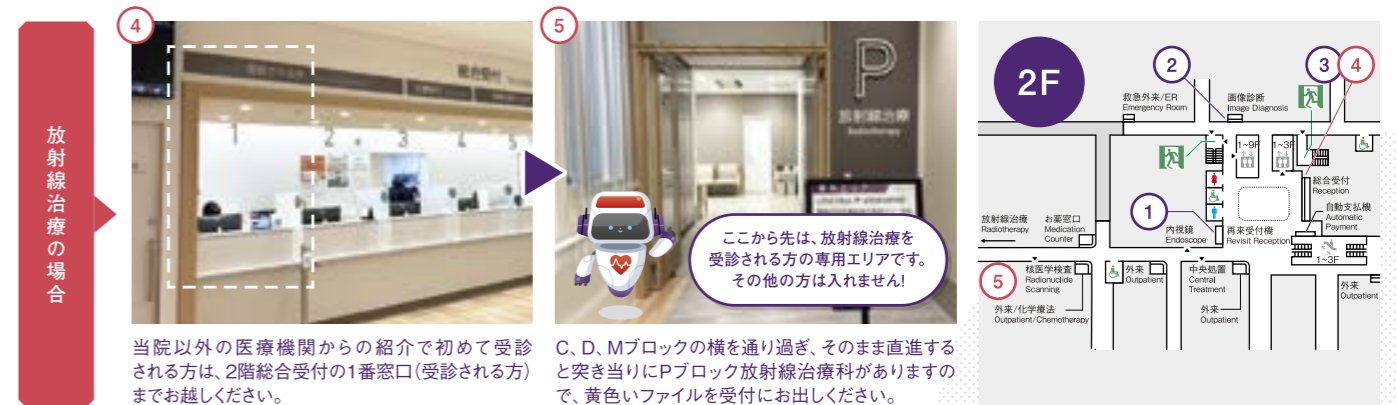


ケンオー  
KEN-O くん

済生会新潟県中央基幹病院の新米ロボット。県中央地域のみなさんが健康で楽しく暮らしていくためのお手伝いをするべく、日々勉強中。このコーナーでは、KEN-Oくんが院内をまわり、院内設備の紹介や各受付への行き方などを紹介しています。

画像診断・放射線治療 受診の流れ

(X線・CT・MRI等)



リハビリスタッフが教える

口腔体操

口腔体操とは、舌や口周りの筋肉を意識して動かすことで、口腔機能の低下に伴う摂食・嚥下障害および構音障害を予防することができる体操です。口腔機能が衰えていくことは、早期の重要な老化のサインとされています。美味しい食事を楽しむためにも、毎日の口腔体操を継続していきましょう。



POINT 鏡などで確認しながら、なるべく大きく動かすように意識することがポイントです。

# 01 REPORT

## 国境なき医師団(MSF)外科医 南スーダン活動報告会を開催

12月12日、当院の外科主任診療科長である中塚英樹医師が国境なき医師団外科医として南スーダンでの活動報告会を開催し、約120名が会場およびWEBで参加しました。本報告会では、中塚医師が本年8月末から約2カ月間にわたり、南スーダンのアビエイで外科医として従事した経験について語られました。

同地域は医療インフラが脆弱で、銃創、骨折、熱傷、膿瘍など緊急性の高い症例が多く、限られた医療資源の中で迅速かつ的確な治療が求められました。

### 〈南スーダンの背景と現状〉

スーダンと南スーダンはかつて同じ国でしたが、宗教・民族・石油資源をめぐる対立から長年の内戦を経て、2011年に南スーダンが独立しました。しかし、2013年に再び内戦が発生し、現在も治安不安や食料不足、貧困、インフラ未整備といった人道危機が続いています。

国連や国境なき医師団などの国際機関が医療・人道支援を行っていますが、治安の悪化や資源不足により支援活動は困難を極めています。

### 〈活動報告の内容〉

報告会では、現地の厳しい医療環境や課題について、具体的な事例を交えて説明が行われました。医療物資や設備の不足、衛生環境の不備、限られた医療人員の中で、いかにして命を救うかという現場の葛藤が生々しく語られました。

さらに、現地での生活環境や社会的背景、派遣先の決定プロセスについても詳しく解説されました。中塚医師の経験談は、医療の現場が国境を越えて繋がっていることを再認識させ、国際協力の意義や医療支援の重要性について深い理解を促す貴重な機会となりました。

参加者からは多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われるなど、国際医療活動への関心の高さがうかがえる有意義な報告会となりました。



## 済生会の「無料低額診療事業」のご案内

当院では社会福祉法に基づき、医療費の軽減・減免を行っております。療養生活において経済的な事情がございましたら、お気軽に患者サポートセンター(2階)窓口にお声掛けください。医療ソーシャルワーカーが対応いたします。

【お問合せ】患者サポートセンター

TEL.0256-47-4700 (代表)

# VOICE Q&A

ご利用者の皆さんからいただいたご意見・ご質問にお答えします。

## Q 1 病院内での通話はどこでできますか？

病院内での通話可能場所につきましては、掲示板等に「通話可能エリア」の掲示をしております。指定された場所でのみ通話をお願いします。「通話禁止エリア」の掲示がある場所での通話をご遠慮ください。ご不明な点がございましたら、お近くのスタッフにお尋ねください。

OK

### 〈通話可能エリア〉

- ❖ 1Fフロア全域(エントランス、タクシー呼出電話、休憩スペース等)
- ❖ 病棟個室(1人部屋)
- ❖ 各病棟奥のデイルーム
- ❖ 各病棟のエレベーター降りて自動ドア入ってすぐのフリースペース 等

※通話可能エリア内においても、大声での会話や周囲にご迷惑をおかけしないよう、ご配慮いただきますようお願いいたします。



NG

### 〈通話禁止エリア〉

- ❖ 手術室
- ❖ ER(救急外来)
- ❖ 全ての診察室
- ❖ 集中治療室
- ❖ 各種検査室
- ❖ 全ての処置室
- ❖ 病棟大部屋(4人部屋) 等

※緊急時にはスタッフにご相談いただきますようお願いいたします。



使用にあたってのご注意

- 通話可能エリアであっても、病院内ではすべての携帯電話をマナーモードに設定していただきますようお願いいたします。
- 診察、会計の待ち時間に電子機器(PC、スマホ、タブレット等)の使用は可能ですが、診察中は使用不可とさせていただいております。ご了承ください。



## 済生会新潟県央基幹病院はご利用者の皆さまの声に対応しております。

済生会新潟県央基幹病院では、いただいたご意見をもとに、皆さまにより快くご利用いただける病院を目指し、日々改善を続けて参ります。お気づきの点がございましたら、1階エスカレーター前・2階待合ロビー脇に設置されておりますご意見箱に、皆さまの声を投函ください。よろしく願いいたします。



SAISEIKAI NIIGATA KENOH KIKAN HOSPITAL

---

〈今月号の表紙の写真について〉

当院には17名の「診療看護師・専門看護師・認定看護師」が在籍しており、それぞれの専門分野で活躍しています。スタッフへの指導・支援や患者さんへの直接的なケアを通じて、看護の質の向上に努めています。また、院外の地域の皆さまにもご活用いただけるよう、活動に取り組んでいます。

---



社会福祉法人

恩賜  
財団

済生会新潟県央基幹病院

〒955-0091 新潟県三条市上須頃5001番地1

TEL.0256-47-4700 FAX.0256-33-8808

<https://www.kenoh.saiseikai.or.jp/>

